

5. 暮らしのうつりかわり



かぶしま はま ふきん
歌舞島から見た「西の浜」付近（大正時代）

（「目で見る三浦市史」より 高梨健児氏 提供）

上の写真と次のページの写真は、同じ場所を写したものです。
遠くに見える島が城ヶ島で、どうやら同じ場所だということ
がわかりますが、ずいぶん様子がちがいます。

昔は、道路のすぐ近くが海岸で、船なども見られますが、今
ではそこもうめ立てられ、家やビルがたちならんでいます。

人びとの暮らしの様子に、ちがいはないでしょうか。

わたしたちの市や人びとの暮らしなどが、どのようにかわっ
てきたのか調べてみましょう。



げんざいの「西の浜」^{にし はま}（編集委員撮影）

学習のめあて

1. わたしたちのまわりにある、昔^{むかし}から伝えられてきた道具にはどんなものがあるでしょう。また、それが使われていたころのくらしはどんな様子^{ようす}だったでしょうか。
2. 三浦市は、どのようにうつりかわってきたでしょう。
3. 市内にのこっている文化財^{ぶんかざい}や古くから伝わる行事には、どのようなものがあるでしょう。人びとはそれらを、どんな考え^{ねが}や願いをこめて伝えてきたのでしょうか。
4. 生活をよくするために、地^ちいきの人びとは昔^{むかし}からどんな工^く夫^{ふう}や苦^{くろ}労^うをしてきたのでしょうか。

(1) 昔さがし

みなさんの家や学校には、昔の^{むかし}道具^{どうぐ}や服^{ふく}などが残^{のこ}っていませんか。それらを^{しら}集めたり調^{むかし}べたりして、昔の人たちの生活について考えてみましょう。



たいしょうじだい ふく
大正時代の服そう



たいしょうじだい
大正時代の教科書

(「目で見える三浦市史」より)



でんとう
電灯の下でだんらんの様子 (編集委員作成)

たいしょうじだい
大正時代の 1913 年に
みさきまち でんとう
三崎町で初めて電灯がつ
きました。

「とても明るい」と人
びとは^{おおよろこ}大喜びしました。

◆生活の様子ようす



ふろ場



台所（「目で見える三浦市史」より）

むかし 昔の家の、台所とふろ場ようすの様子です。今とくらべて、ずいぶんちがっていることがわかります。

水道がひかれる前は、井戸いどをほって飲のみ水やせんたく、ふろなりようどに利用していました。



茶がま (文化財収蔵庫所蔵)



アイロン (文化財収蔵庫所蔵)



たらいとせんたく板 (文化財収蔵庫所蔵)



ランプ (文化財収蔵庫所蔵)

おばあさんの話

朝、起きるとすぐ、台所のかまどに、火を起こしました。ごはんをたいたりお湯をわかしたりするので、火を消さないように、注意しなければなりません。

水道がなかったなので、ふろやせんたくの時は、井戸から水をくんできました。

ふろおけに水をいっぱいにするには、何回も何回も運ばなければならぬので、とてもたいへんでした。

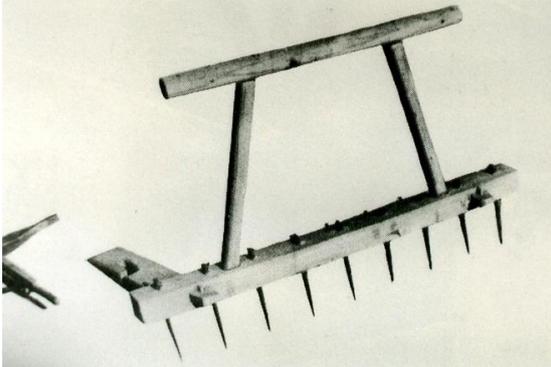
せんたくは、たらいに水をくんで、手であらいました。たくさんあらうと、手やこしがいたくなりました。

夜はぬいものをしていました。

今のような電気せい品がなかったなので、家の仕事はとても時間がかかり、一日中、働きどおしだったものです。



足ふみだっこき (文化財収蔵庫所蔵)



ま
馬ぐわ



こえおけてんびん

(「目で見える三浦市史」より)

おじいさんの話

おかし のうか
昔の農家は、夜が明けて明るくなると起きました。牛・馬の世話や、
たはた
田畑に行くじゅんびをします。

はっせ
初声は、田が多くありました。田おこしは、くわでやりました。田植え
は、前かがみで中ごしになってなえを植えるので、こしがいたくなります。

いねが育ててくると、田の草取りをします。がい虫たいじは、重いタン
クをせおってしました。いねが実ると、かりとってほしたり、足ふみだっ
こくきで、もみを落としたりしました。

みさき みなみしたうら はたけ だいず
三崎や南下浦は、畑が多くありました。おかぼ・大豆・サツマイモ
などを主に作っていました。毎日、日がくれて、手もとが見えなくなる
までがんばりました。夜は、なわや、わらじやたわらなどを作りました。

(2) わたしたちの市のうつりかわり

◆三浦市になる前

昭和初めごろの、三浦市ようすの様子です。そのころは、三崎町みさきまち、
南下浦村みなみしたうら、初声村はっせの三つに分かれていました。



①花暮はなぐれの全景ぜんけい (手前左側あた辺りに最初の魚市場うおいちばができた) (「目で見える三浦市史より」)



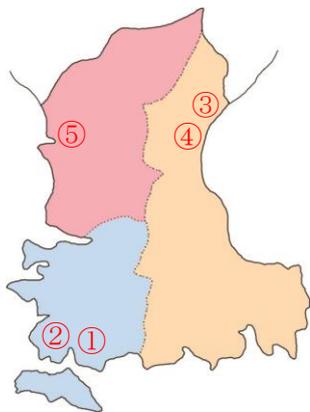
②三崎公園ふきん付近 (「目で見える三浦市史」より)



みなみしたうら かみみやだぶんこう
 ③ 南下浦小学校上宮田分校（南下浦市民センター）（「目で見える三浦市史」より）



かみみやだまつばらかいがん
 ④ 上宮田松原海岸（三浦海岸のあたり）（「目で見える三浦市史」より）



むかしの三浦

（編集委員撮影）



はつせいりえわん ほうぼく
 ⑤ 初声入江湾の放牧（三浦初声臨海高校のあたり）

（「目で見える三浦市史」より）

◆^{たいへいようせんそう}太平洋戦争



金ぞく^{かい}回しゅう（「目で見える三浦市史」より）

1941年（^{しょうわ}昭和16年）12月、^{せんそう}戦争が始まりました。^{せんそう}戦争が進むにつれて、お父さんや、^{わか}若い男の人たちは、^{せんじょう}戦場に行き、^なおおぜいの人^なが亡くなりました。食べ物や着る物もたりなくなり、^{はいきゅうせい}配給制になりました。人びとは、長い間^{くる}たいへん苦しい生活をしました。

^{みさき}三崎のマグロ船も、^{せんそう}戦争にかり出されました。その中には、ぎょらいでしずめられた船もありました。

空しゅうけいほうの鳴る日^ながつづきました。^{せんそう}戦争がはげしくなるにしたがって、三崎の町でも食べ物^{のうか}が少なくなってきました。そこで農家へ買い出しに出かけました。近くは、^{ほら}原や^{みやわほうめん}宮川方面、遠くは^{びしゃもん}毘沙門や^{まつわ}松輪、^{かね}金田方面^だにリヤカーを引いて行きました。農家では、自分の家で食べるために作ったジャガイモや、サツマイモ、ダイコンなどを品物とひきかえに分けてくれました。

どて ぼうくう
土手には、防空ごうをつくって、空しゅうけいほうが鳴ると、みんなで
にげこみました。しょういだんが落ちて火事が起きた時のため、家の前に
大きな用水おけをおき、水をいっぱい入れておきました。夜は、電球に黒
いきれをかぶせ、外にあかりがもれないようにしました。横浜市で大空
しゅうがあった時には、三崎からも、空がまっ赤に焼けて見えました。

物が不足していたので子どもはみんな、つぎはぎだらけの着物を着てい
ました。

アイロンや火ばし、お寺のかねのような金ぞくは、国へおさめなければ
なりませんでした。



ぼうくう
防空ごう (編集委員撮影)

◆三浦市がたん生してから

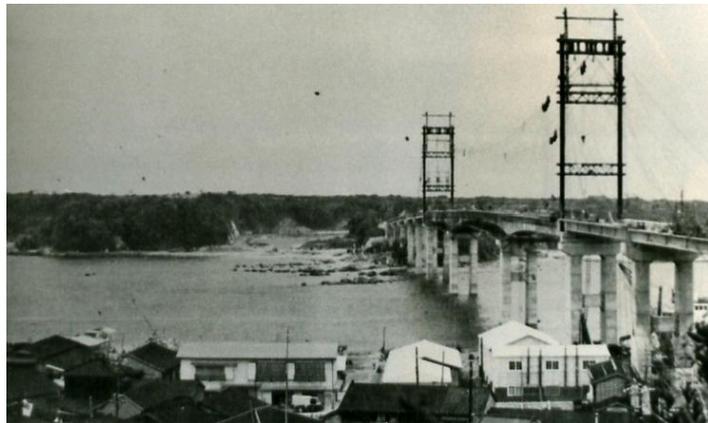
1955年（昭和30年）1月1日、三崎町、南下浦町、初声村が合併して、三浦市がたん生しました。

三浦市になると、三つの地区が深く結びつくようになり、道路の整備も進められました。

三浦市がたん生したころの人口は、約3万5千人でした。

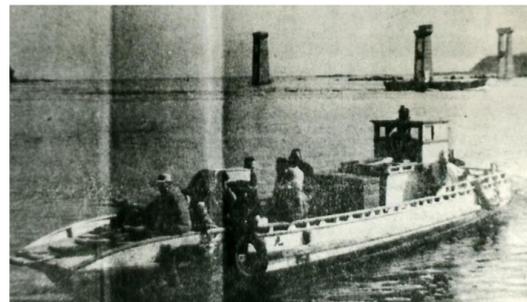


祝賀式（「目で見える三浦市史」より）



けんせつ中の城ヶ島大橋（「目で見える三浦市史」より）

1960年（昭和35年）4月、城ヶ島大橋が完成しました。それまでは、小さい船で行き来していたので、海があればどこまりましたが、橋の完成によって、いつでも行き来できるようになりました。



渡し船（「目で見える三浦市史」より）

1966年（昭和41年）7月に、上宮田まで鉄道がのびて、三浦海岸駅ができました。通きん、通学がべんりになり、横浜、東京方面まで、つとめや買い物に出る人も多くなりました。観光客もたくさんおとずれるようになりました。

駅のまわりは、^{しょうてん じゅう}商店や住たくがふえてにぎやかになり、^{ようす}様子がすっかりかわりました。

1975年（昭和50年）4月には、^{みさきぐちえき}三崎口駅もできました。

<南下浦市民センター前の道路の今と昔>



^{かいがんえき}三浦海岸駅ができる前（長島文夫氏 昭和37年撮影）



げんざいの様子（編集委員撮影）

(3) 伝えられてきた文化財^{ぶんかざい}



^{かいなん}
海南神社の夏まつり (編集委員撮影)

^{みさき} ^{かいなんじんじゃ}
三崎の海南神社で、毎年海の日^{うみの日}の前の土曜日、日曜日に行われる夏祭りの様子です。みこしやだし、ししが出ます。夜店^{よみせ}もならんでたくさん^{ひとで}の人出でにぎわいます。

この祭りは、大漁^{たいりょう}をいのり、病気^{びょうき}やけがをしないように願^{ねが}って、古くから続け^{つづ}られているものです。

市内にはこのほかにも、昔^{むかし}の人びと^{ねが}のいろいろな願^{ねが}いがこめられた、祭りや行事^{ぎょうじ}が伝え^{つた}られています。



いなりっこ (編集委員撮影)



オシヨロ流し



みやた
宮田のすもう (編集委員撮影)



めん
面かぐら (編集委員撮影)

おかしからの行事

- 1月 おんべやき
チャッキラコ
- 2月 いなりっこ
- 6月 てんのうさい
天王祭
- 7月 さいれい
祭礼
- 8月 オシヨロ流し
- 9月 みやた
宮田のすもう
- 10月 えしき
お会式
- 11月 めん
面かぐら
- じゅうや
お十夜
- 12月 いち
とりの市



おんべやき (編集委員撮影)

◆チャッキラコ

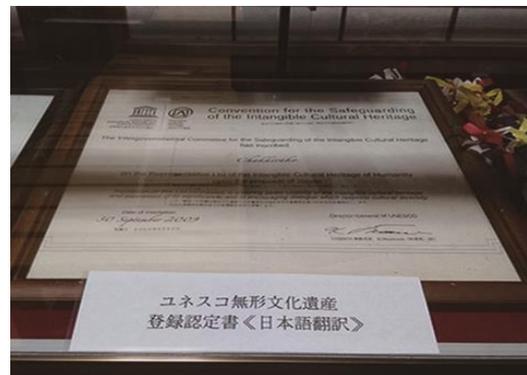


チャッキラコ（文化スポーツ課提供）

市内に古くから伝わる文化財の中で、国から大切な文化財としてみとめられているものが、三つあります。諸磯の隆起海岸、三戸のオショロ流しと、チャッキラコです。

チャッキラコは、江戸時代中期から（一説によると鎌倉時代初期から）伝わっているおどりで、毎年1月15日に海南神社で行われます。20人くらいの小学生以下の女の子たちが、母親たちのうたに合わせておどります。みんな、細い5色の紙テープをつけたチャッキラコとよばれるぼうと、せんすを持って、晴れ着すがたでとりくみます。

チャッキラコを守るための会が昭和29年にできました。この会の人たちを中心とする多くの人たちの努力によって、今もチャッキラコは受け継がれていて、2009年には、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。



無形文化遺産の認定書（編集委員撮影）

チャッキラコを守っている人の話

チャッキラコは 200 年^{いじょう}以上前から、三崎^{はなぐれ}の花暮^{なかざき}・仲崎^す地区に住んで
いる人たちを中心に^{まも}守られてきました。

おどりに^{さんか}参加する子は、ようち園^{えん}から6年生までの女の子です。

毎年1月15日のおどりのために1月7日から13日の1週間、地区
の会館^{かいかん}で練習^{れんしゅう}をしています。練習^{れんしゅう}は夜行^{よるおこな}われるので、子どもたちは
寒^{さむ}くてたいへんです。しかし当日^{とうじつ}には多くの人たちが見に来てくれる
ので一生^{いっしょう}けん命^{めいれんしゅう}練習^{れんしゅう}しています。

チャッキラコ保存会^{ほぞんかい}では、いしょうやせんすなどおどりにひつよう
な費用^{ひよう}を出したり、保存^{ほぞん}のための話し合いをしたり、本^{ほん}を発行^{はっこう}したり
して守る努力^{まも}を続けています。

市^{ほぞん}や保存会^{ほぞん}などは、協力^{きょうりょく}しあって、これからも三崎^{みさき}に古くから伝
わっているこのおどりを守って^{つた}いけるように話し合っています。また、
もっと多くの人たちが、おどりに^{かんしん}関心を持ってほしいと思います。

おどっている小学生の話

1年生のころから習っています。

新しいおどりをおぼえた時、また、おずかし
いおどりをおどれるようになった時は、本当に
うれしいです。

練習はたいへんですが、1月15日、けしよ
うをし、いしょうを身^みにつけると、がんばろ
うという気持ち^{きもち}になります。

よその町にしょう待^{たい}されて、おどることが
ありますが、その時は、きんちょうします。

今では、おどりだけでなく、うたもうたえる
ようになりました。



チャッキラコの練習
(編集委員撮影)

◆市内に残されている自然や文化財



①十却寺の笹塚不動 (編集委員撮影)



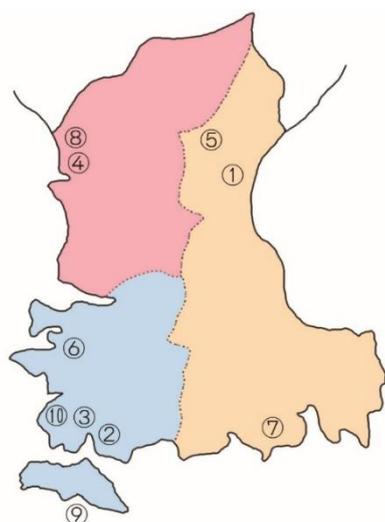
②大椿寺のはにわ (三浦市)



③本瑞寺の銅鐘 (編集委員撮影)



④延寿寺のわに口 (編集委員撮影)



⑤来福寺の和田義盛木像 (三浦市)

市内には、いろいろな自然^{しぜん}
や文化財^{ぶんかざい}が残^{のこ}されています。
大切^{たいせつ}にして、いつまでも伝^{つた}
えたいものです。



もろいそ りゅうきかいがん
⑥諸磯の隆起海岸 (編集委員撮影)



びしゃもん
⑦毘沙門どうくつ (編集委員撮影)



ながはまかいがん くるまつ
⑧長浜海岸の黒松林 (編集委員撮影)



じょうがしま
⑨城ヶ島のウミウ (編集委員撮影)



かいと こうぞう
⑩海外のスランプ構造 (編集委員撮影)

(4) くらしを高める願い

◆ 入江新田

1708年(江戸時代)、初声の入江で新田の開発が始められました。その新田は入江新田とよばれ、現在の初声小学校や、初声市民センターが建てられている付近です。

当時は、あたり一面が低地で海に近かったため、海水が流れこむことがあって、たがやすのがおずかしい土地でした。それを田にしたい、という人々の願いをうけて開発が始まりました。開発した人は、げんざいの横須賀市武山の山田惣左衛門是重とその子儀左衛門是次で、近くに住む農民たちを集め、計画を立てました。

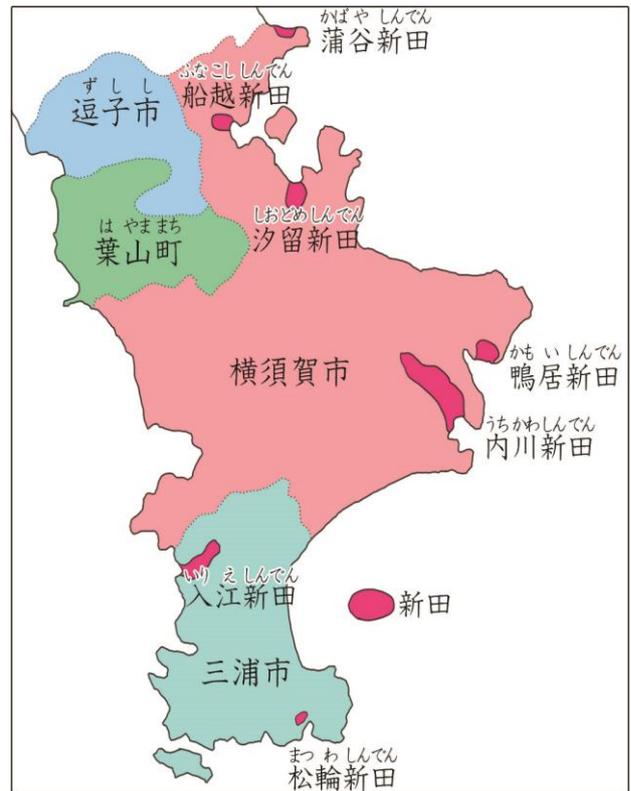
開発は、入江をていぼうで囲み、中をうめていくという方法で行われました。



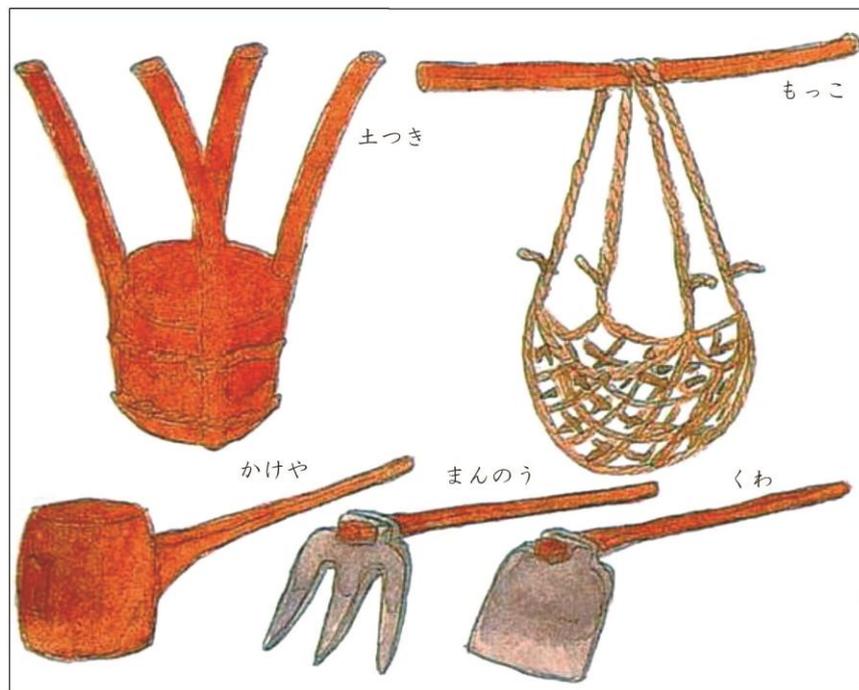
入江新田付近 (編集委員作成)

しかし、波^{なみ}でていぼうがこ
 われることがたびたびあり、
 また仕事場^{しごとば}が風雨^{ふうう}でこわされ
 るなど、仕事^{しごと}はなかなか進^{すす}み
 ませんでした。苦勞^{くろう}のすえ、
 30年という長い年月をかけ、
 工事が完成^{こうじかんせい}しました。

入江新田^{いりえしんでん}の広さは、およそ
 15ha（ヘクタール）でした。



三浦半島^{みうらはんとう}の新田^{しんでん}（編集委員作成）



開発^{かいぱつ}に使われた道具（編集委員作成）

三浦市のうつりかわり ねんびょう (年表)

	年 (頃)	おもなできごと	
戦争の前	明治	1870年	<ul style="list-style-type: none"> ○城ヶ島<small>じょうがしま</small>について三崎<small>つるぎさき</small> (さきの字は土偏<small>こ</small>音)にも燈台<small>とうだい</small>がつくられた。 ○三崎<small>みさき</small>小学校ができた。 ○三崎に郵便<small>ゆうびん</small>扱<small>あつか</small>い所<small>ところ</small>ができた。
		1880年	<ul style="list-style-type: none"> ○横須賀<small>よこすか</small>警察<small>けいさつ</small>三崎<small>みさき</small>分署<small>ぶんしょ</small>ができた。 ○三崎と東京<small>とうきょう</small>の間にはじめて気船<small>きせん</small>が通った。(三浦汽船<small>みうらきせん</small>) ○家庭<small>かてい</small>でランプが<small>つか</small>われるようになった。
		1890年	<ul style="list-style-type: none"> ○三崎燈台<small>つるぎさきとうだい</small> (さきの字は土偏<small>こ</small>音) ではじめて電<small>でん</small>が<small>つか</small>われるようになった。 ○初声<small>はつせ</small>小学校ができた。 ○国鉄横須賀線<small>こくてつよこすか おおふな よこすか かいつう</small> (大船 - 横須賀) が開通した。
	大正	1900年	<ul style="list-style-type: none"> ○乗合馬車<small>のりあいばしや</small>が通るようになった。 (三崎 - 長井<small>ながい</small>ののち、三崎 - 横須賀<small>よこすか</small>・逗子方<small>ず しほうめん</small> 面) ○南下浦小学校ができた。 ○三崎<small>けんざき</small>小学校ができた。 ○電話<small>かいつう</small>が開通した。 ○はじめて電灯<small>でんとう</small>がついた。 ○三崎と横須賀<small>よこすか</small>の間を乗合自動車<small>のりあいじどうしゃ</small>が走った。
		1920年	<ul style="list-style-type: none"> ○魚市場<small>うらが</small>ができた。 ○三崎と浦賀<small>のりあい</small>の間を乗合自動車<small>のりあいじどうしゃ</small>が走った。 ○関東大震<small>かんとうだいしんさい</small>災<small>お</small>が起きた。 ○三崎地区<small>ちく</small>に水道がひかれた。
		1930年	<ul style="list-style-type: none"> ○城ヶ島<small>じょうがしま</small>が大火<small>たいか</small>にあった。
昭和	1940年	<ul style="list-style-type: none"> ○第二次世界大戦<small>だいにじせかいたいせん</small>が終わった。 ○三崎・南下浦・初声の三地区にそれぞれ中学校ができた。 ○三崎消防署<small>しょうぼうしょ</small>ができた。 	
	1950年	<ul style="list-style-type: none"> ○三崎国民健康保険病院<small>こくみんけんこうほけんびょういん</small> (今の市立病院<small>しりつびょういん</small>) ができた。 ○ビキニ水<small>じっけん</small>ばく実験<small>じっけん</small>でよごされたマグロをたくさんすてた。 ○三崎町・南下浦町・初声村を併せて三浦市となった。 ○岬陽小学校ができた。 	

戦 争 の 後	昭 和	1960年	<ul style="list-style-type: none"> ○城ヶ島大橋<small>じょうがしまおおはし</small>ができた。 ○初声地区や南下浦地区で学校給食<small>きゅうしょく</small>が始<small>はじ</small>まった。 ○市営<small>しえい</small>プールができた。 ○京浜急行<small>けいひんきゅうこう</small>が三浦海岸駅<small>かいがんえき</small>までのびた。 ○上原<small>かみはら</small>中学校ができた。 ○名向<small>なこう</small>小学校ができた。
		1970年	<ul style="list-style-type: none"> ○上宮田<small>かみみやだ</small>小学校ができた。 ○三崎5丁目<small>たいか</small>で大火があった。 ○京浜急行<small>けいひんきゅうこう</small>が三崎口駅<small>みさきぐちえき</small>までのびた。
		1980年	<ul style="list-style-type: none"> ○南下浦市民<small>しみん</small>センターができた。 ○三崎地区で学校給食<small>ちく</small>が始まった。 ○初声市民センターができた。 ○老人福祉保健<small>ろうじんふくしほけん</small>センターができた。 ○神奈川県三浦合同庁舎<small>かながわけん ごうどうちやうしゃ</small>ができた。 ○旭<small>あさひ</small>小学校ができた。 ○勤労<small>きんろう</small>市民センターができた。
		1990年	<ul style="list-style-type: none"> ○諸磯<small>もろいそ</small>青少年センターができた。 ○環境<small>かんきやう</small>センター・西岩堂埋立地<small>にしいわどううめたてち</small>ができた。 ○地域福祉<small>ちいきふくし</small>センターができた。 ○神奈川県立青少年<small>かいかん</small>会館が三浦市青少年<small>かいかん</small>会館<small>かいかん</small>になった。 ○資源物選別処理<small>しげんぶつせんべつしより</small>が始まった。
		2000年	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい魚市場ができた。 ○宮川公園内に風車を設置した。 ○毘沙門バイパスができた。 ○潮風<small>しおかぜ</small>アリーナができた。 ○うらりができた。
	平 成	2010年	<ul style="list-style-type: none"> ○チャッキラコがユネスコ無形文化遺産<small>むけいぶんかいさん</small>に登録された。 ○三戸のオショロ流しが国の重要無形民族文化財<small>じゅうようむけいみんぞくぶんかざい</small>に指定された。 ○三浦ツナ之介がデビューした。 ○三崎中学校<small>みさきちゅうがっこう</small>と上原中学校<small>かみはらちゅうがっこう</small>を統合して、 新校名「三崎中学校」ができた。 ○みうらんがデビューする。 ○消防広域化<small>しょうぼうこういきか</small>がされた。